

大学生に効果的な教授法

近田 政博

名古屋大学高等教育研究センター准教授

平成25年度 学術情報リテラシー教育担当者研修

2013年10月17日(木) 11:00～12:15 於:大阪大学附属図書館総合図書館

2013年11月28日(木) 11:00～12:15 於:国立情報学研究所

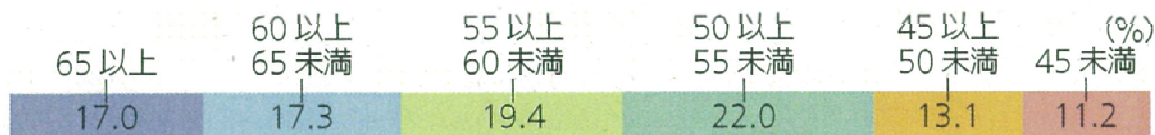
このセッションの内容

- 1. 現代の大学生の学修・生活実態を知る
- 2. 自大学に適した教授法や学修支援のあり方を考える

Benesse 教育研究開発センター

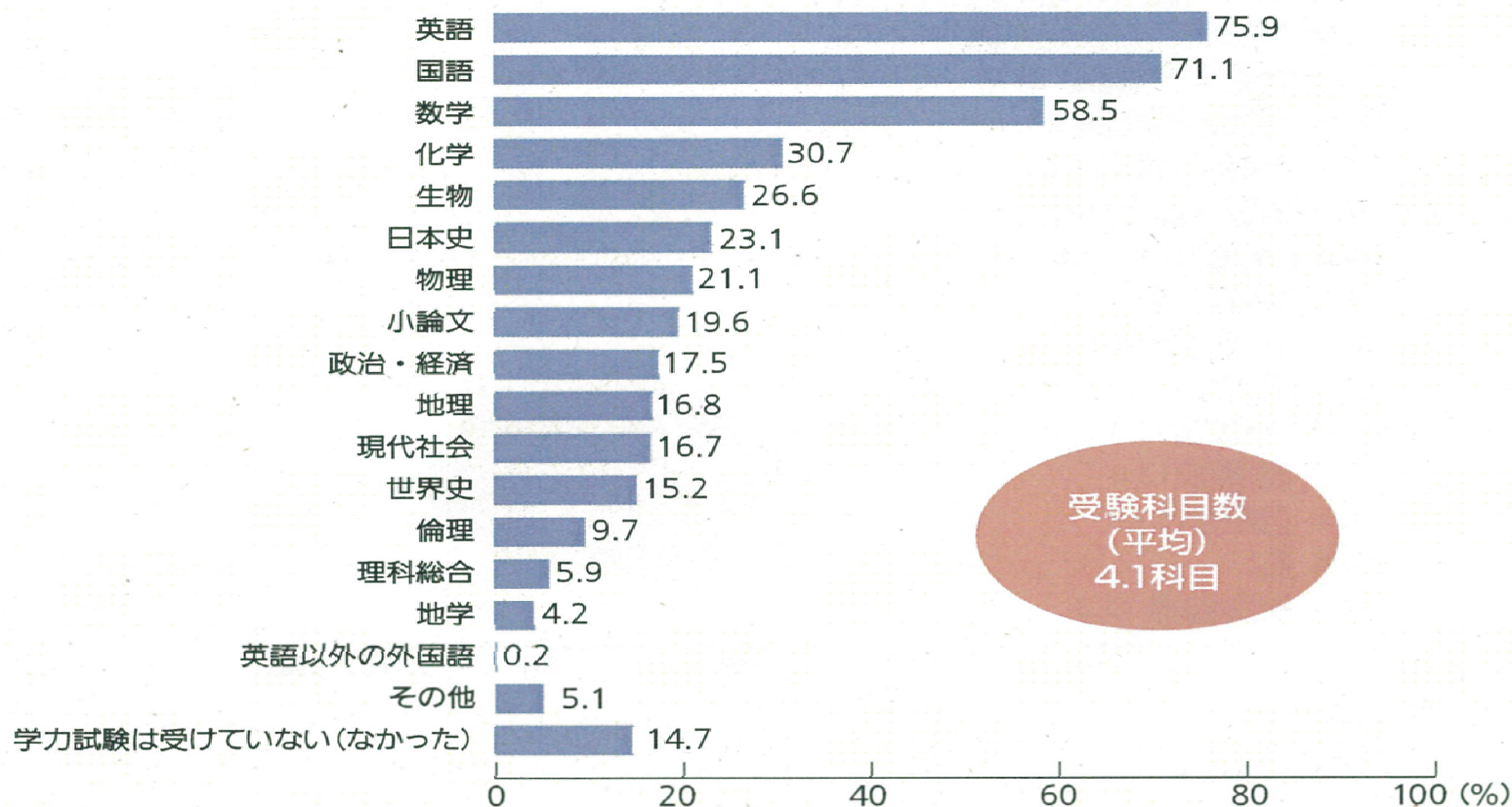
第2回 大学生の学習・生活実態調査報告書

- http://berd.benesse.jp/berd/center/open/report/daigaku_jittai/2012/dai/index.html (2013年9月6日検索、全文ダウンロード可能)
- 実施時期: 2012年11月
- 調査方法: インターネット調査
- サンプル: 全国の大学1~4年生 4,911人
- 国立27.9%、公立7.0%、私立65.0%
- 人文科学15.3%、社会科学34.5%、理工19.1%、農水産4.4%、医薬保健11.3%、教育5.3%、その他10.2%
- 入試難易度



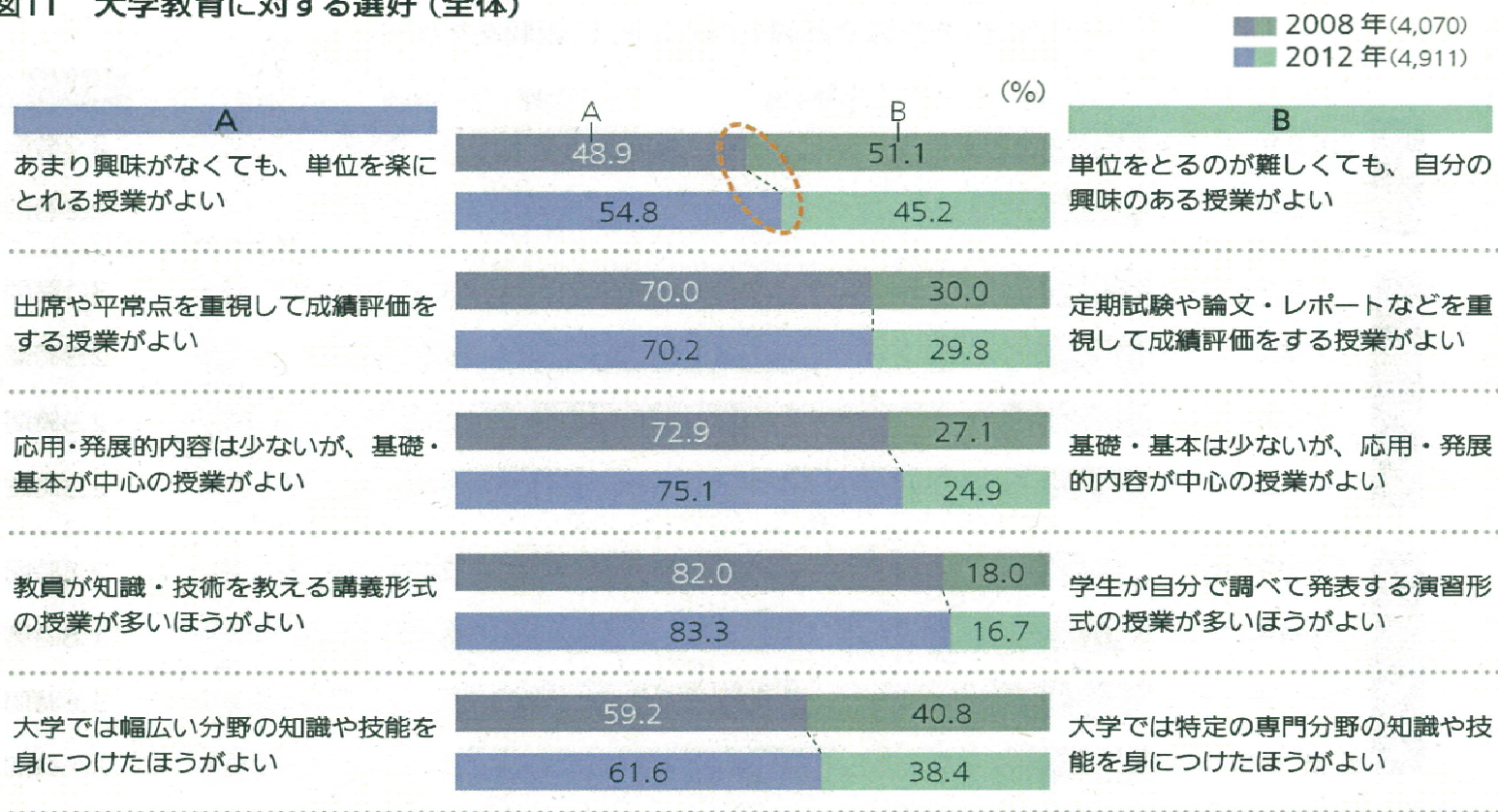
高等学校で習得すべき基礎学力、特に理科・社会全般の基礎が十分ではない可能性が高い

図3 大学受験で経験した科目(全体)

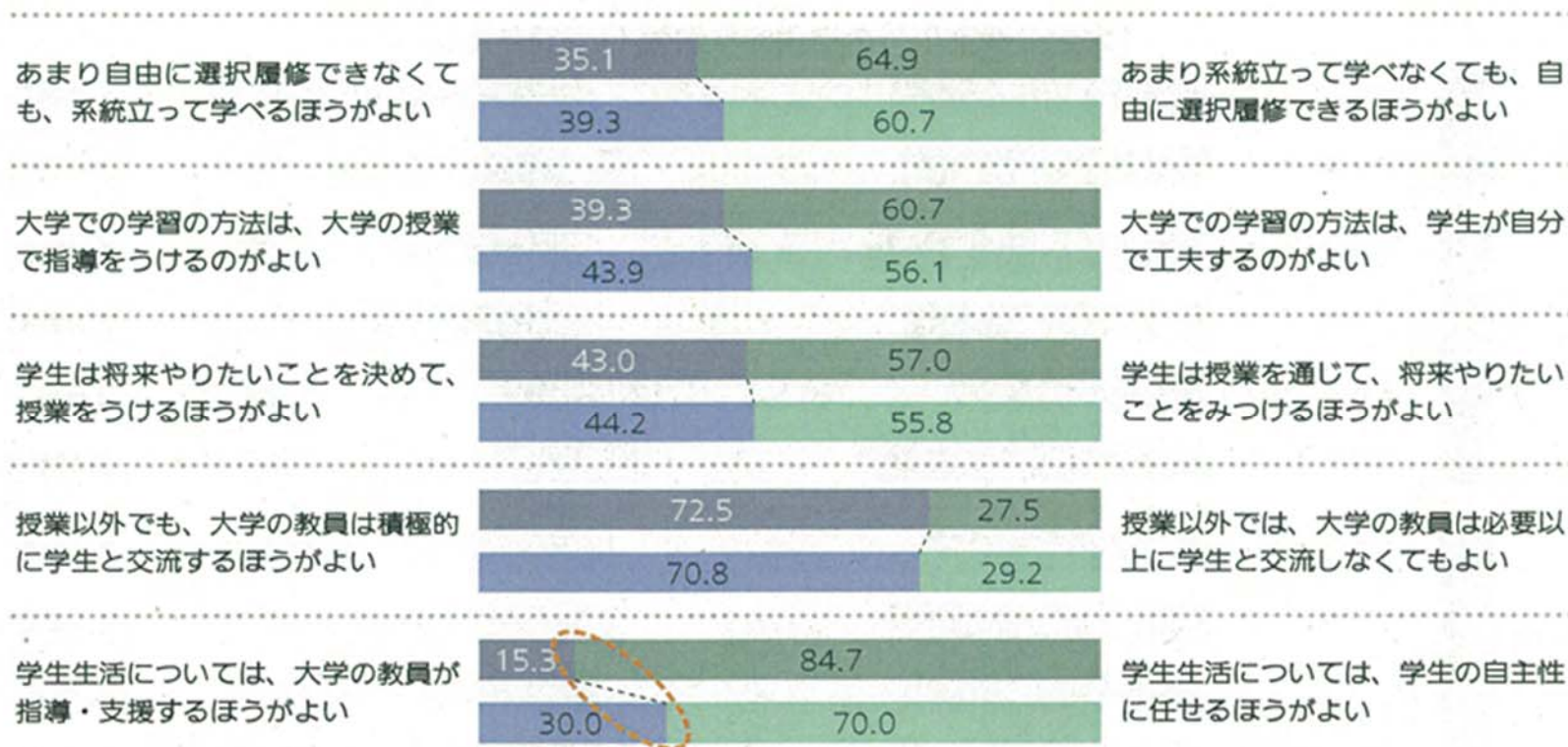


しんどい思いをしても学習したいという意欲が薄れつつある？

図11 大学教育に対する選好（全体）



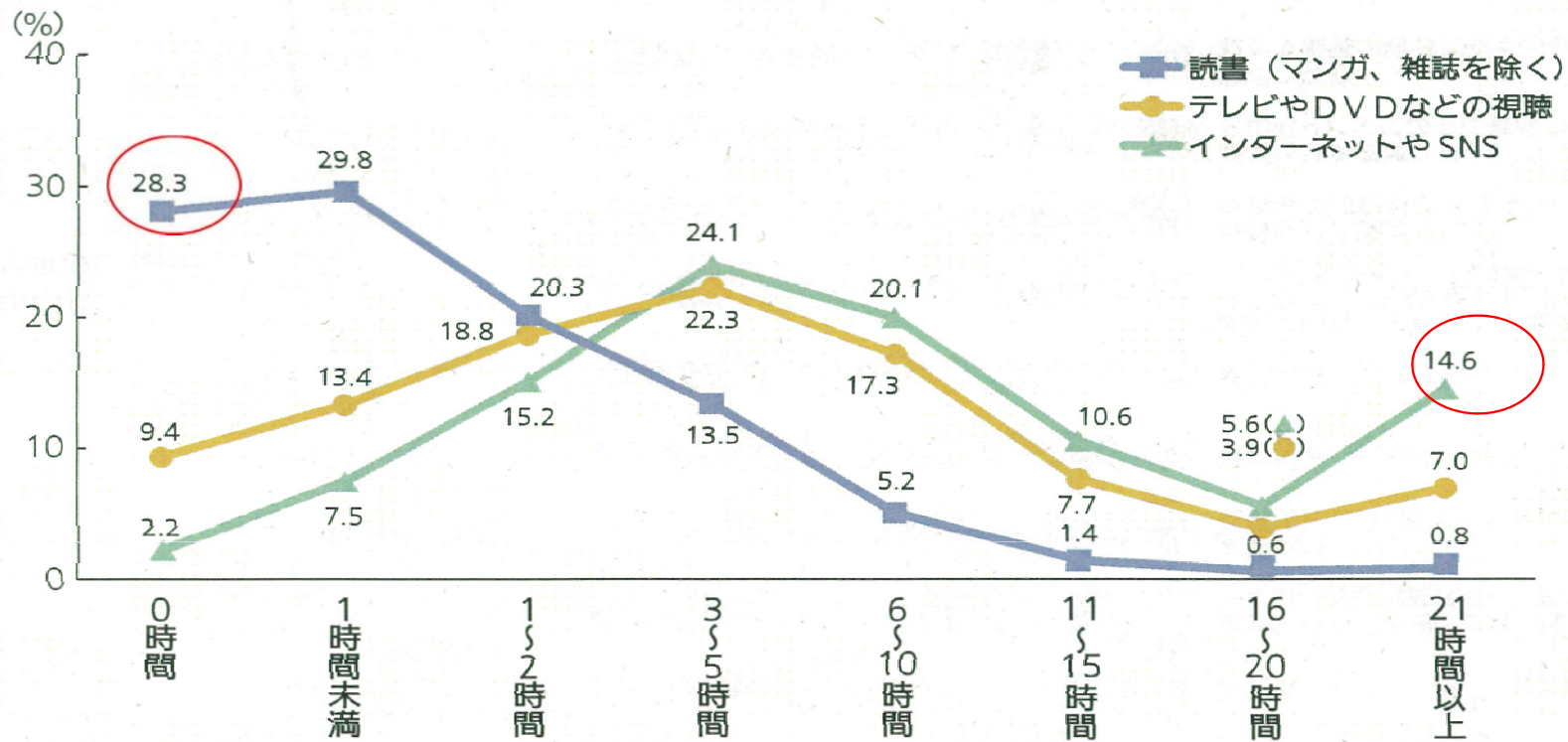
自発的に学習する姿勢が乏しくなっている？



注)2008年調査から5ポイント以上の違いがみられたものには○をしていいる。

一週間に本をほとんど(1時間未満)読まない学生は約6割に達する

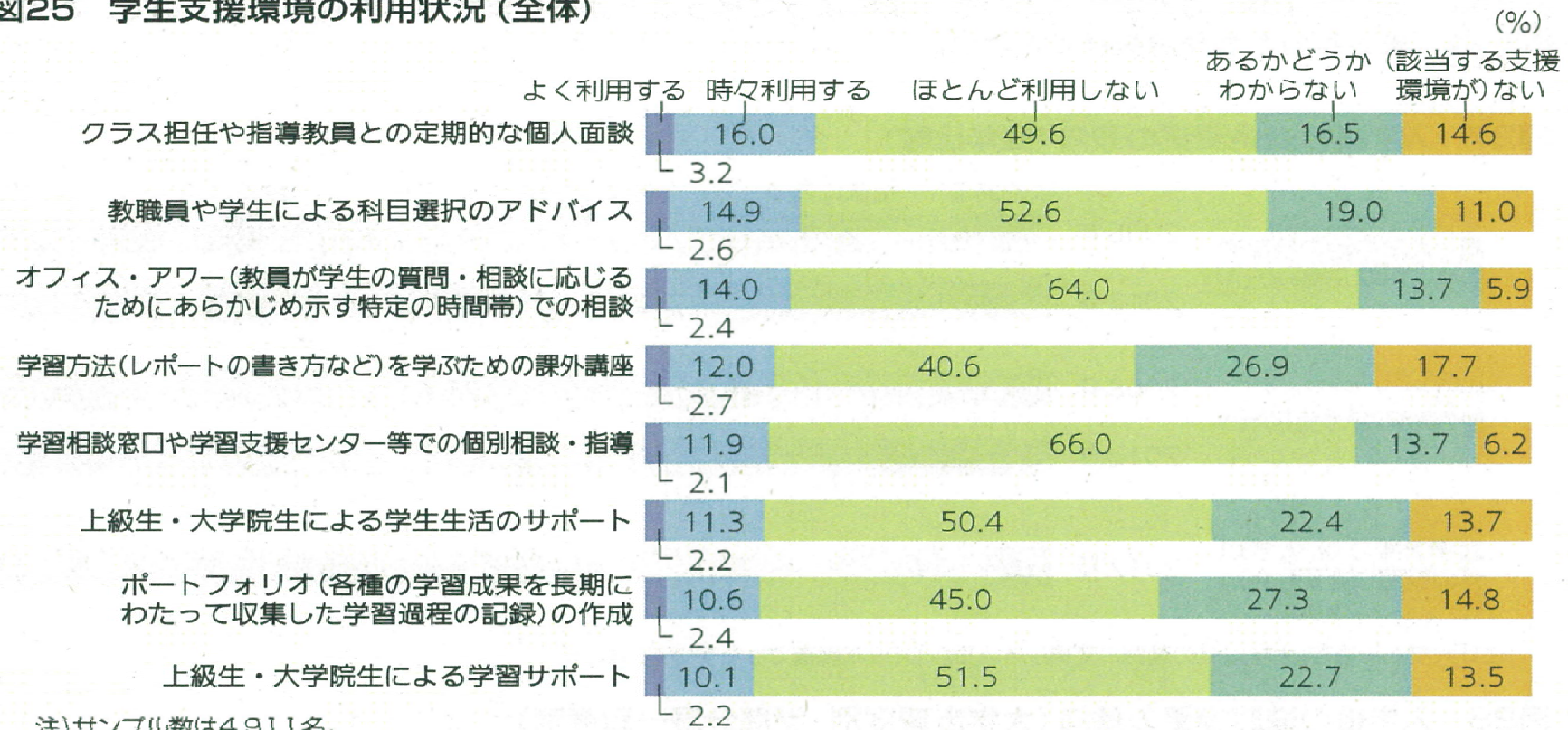
図20 「読書」「テレビ・DVD」「インターネット・SNS」の時間の比較



注1)「不明」は省略している。
注2)サンプル数は4,911名。

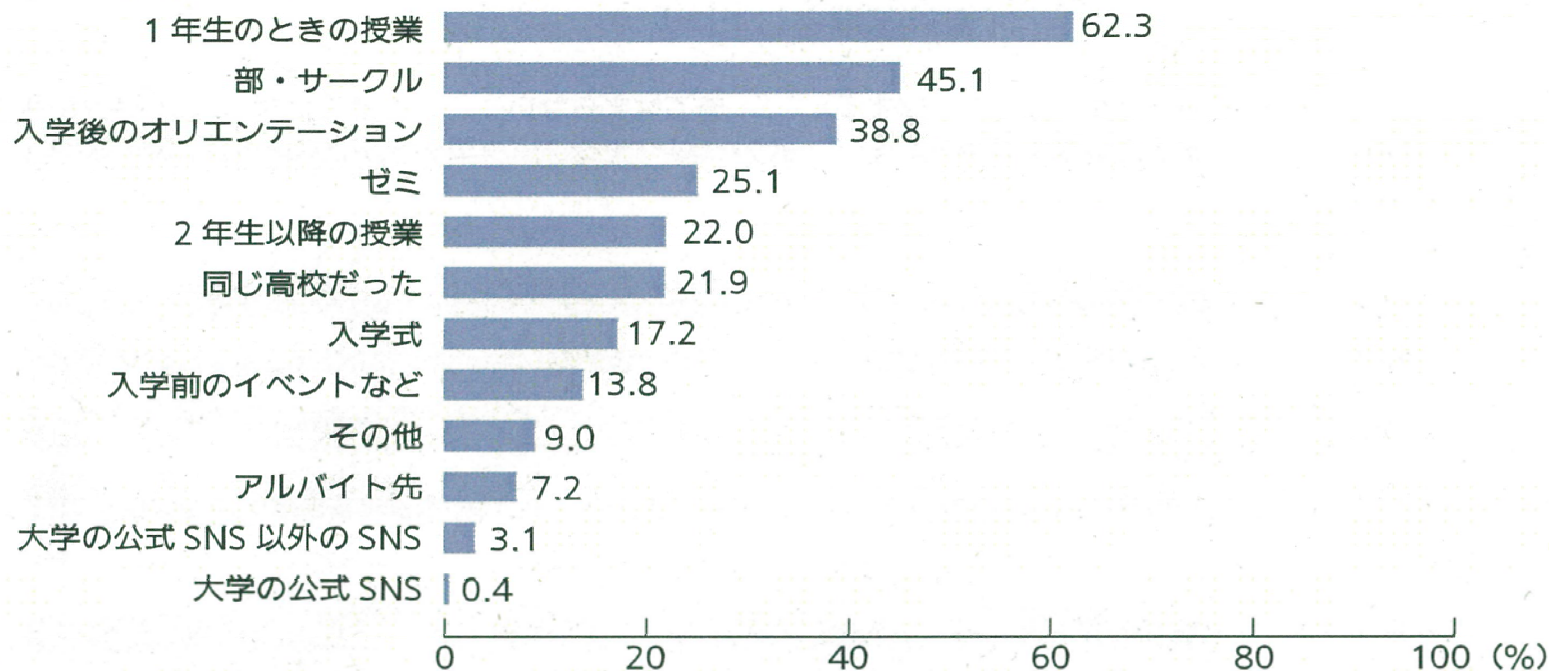
学内の学習支援環境の利用度は低い

図25 学生支援環境の利用状況(全体)



授業は友だちとの出会いの場でもある

図31 友だちと知り合ったきっかけ (全体)



注1)複数回答。注2)サンプル数は4,911名。

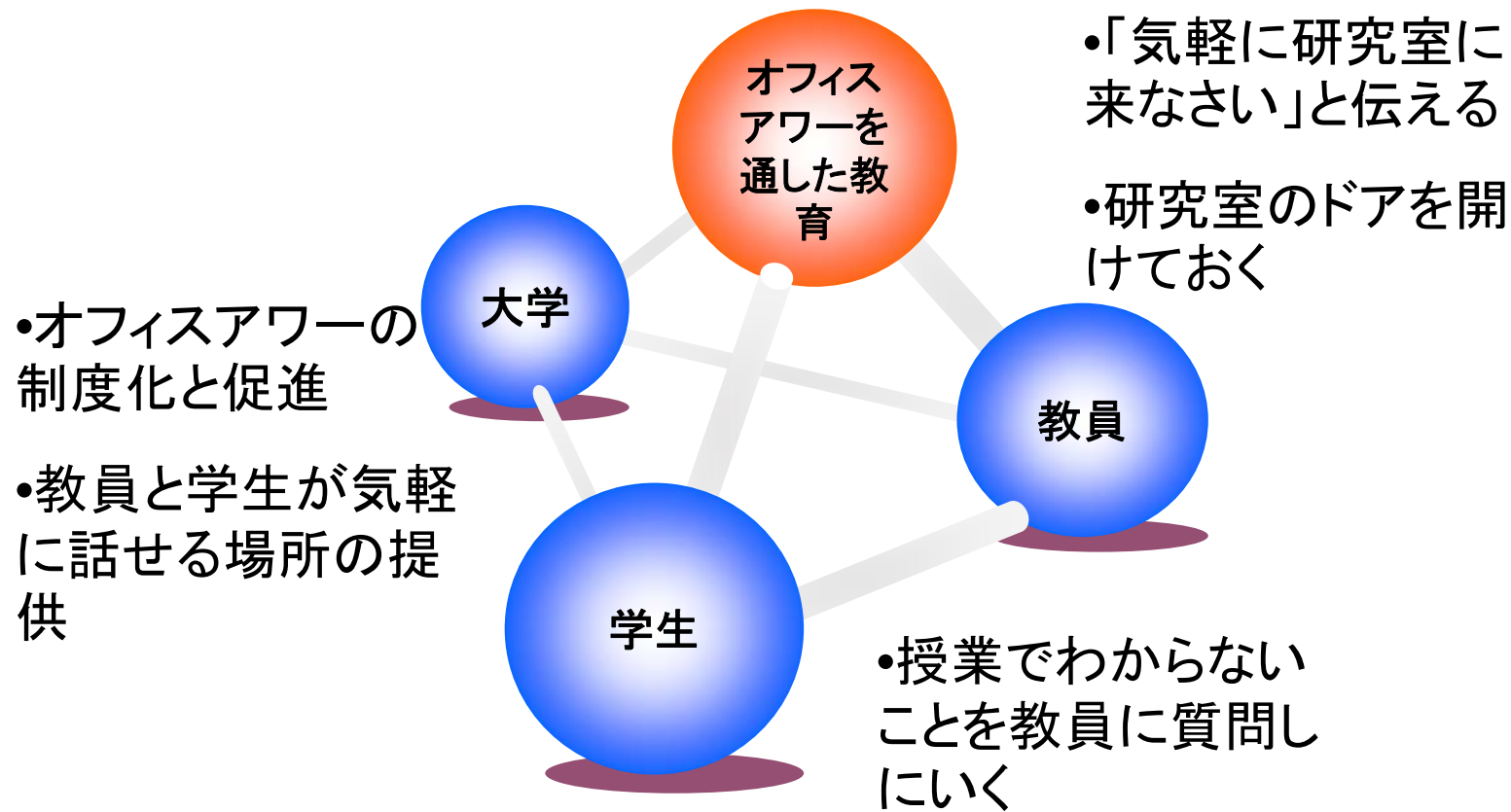
現代の大学生のこうした特性は、あなたの大学の学生にも当てはまるでしょうか？

『ティップス先生からの7つの提案』

- 名古屋大学高等教育研究センター編(2005, 2006, 2007, 2011)
<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/publications/seven.html>
(2013年9月6日検索)
- アメリカの大学で普及しているSeven Principles for Good Practice in Undergraduate Educationの7つの枠組みを日本の大学状況に援用
- 名古屋大学に埋もれていた優れた教育実践を**教員・学生・大学(職員)の視点**からまとめ、大学の中で広く共有させる



たとえば： オフィスアワーに関わる実践手法



今日の研修では、
このうち教員編を使います（意識的に）。

- 教員編の内容を図書館職員の状況に置き換える
- 図書館職員に求められる教育的役割とはどのようなものか？
- その教育的役割は教員とどのように異なるか？



7つの基本提案

1. 学生と接する機会を増やす
2. 学生間で協力して学習させる
3. 学生を主体的に学習させる
4. 学習の進み具合をふりかえらせる
5. 学習に要する時間を大切にする
6. 学生に高い期待を寄せる
7. 学生の多様性を尊重する

グループワークの手順

- 1. 3人一組のグループをつくり、グループ内で自己紹介してください(5分)
- 2. グループで担当する基本提案を一つ選択してください。
- 3. ワークシートを使い、グループで話し合いながら、実践ノウハウを提案してください。(15分)
- 4. グループで提案した実践ノウハウを全体会でみなさんに披露してください。(15分)

提案1. 学生と接する機会を増やす

- クラスの学生に出会ったら声をかける
- 学生にオフィスアワーを積極的に利用するようにすすめる
- 学生に自己紹介させる(変更)
- 学生にとってお薦めの本を紹介する(変更)
- 授業終了後しばらく教室に残り、学生の質問に答える
- 授業についていけない学生や欠席の多い学生に連絡をとる(変更)
- 学生が主催する勉強会やイベントに参加する

提案2. 学生間で協力して学習させる

- 学生同士で協力して学ぶことの重要性を伝える
- 初回の授業では学生がお互いに知り合える活動を取り入れる
- 授業時間の内外において共同で行う課題を出す
- 少人数のグループに分けてディスカッションを行う
- 学生のグループで利用できるメーリングリストや電子掲示板を設定する
- 学生が提出したレポートや答案の内容を受講生全体で共有する
- 学生間でそれぞれの課題を評価し合う活動を取り入れる

提案3. 学生を主体的に学習させる

- 主体的に授業に参加することの重要性を伝える
- 授業ではすべての学生に発言・質問する機会を与える
- 授業の中で学生の課題を発表させる
- 学んだことを他の学生に教えさせる活動を取り入れる
- 学生による授業評価アンケートを実施する(変更)
- 授業をよりよくするための学生の提案・アイデアを歓迎する
- 授業内容に関連する研究会やインターンシップなどを紹介する

提案4. 学習の進み具合をふりかえらせる

- 授業の内容が理解できないときは**教員に伝えるようにすすめる**
- **小テストや宿題**を課すことで学生の進捗状況を常に確認する
- **良かった点を褒め、同時に建設的コメント**を与える
- 出席票に**質問や意見を書かせ、次回の授業で回答**する
- 試験の答案やレポートを**一週間以内に返却**する
- テスト終了直後に**解答例を学生に配布**する
- 学期中に1回以上、個々の学習成果に対して**詳細なコメント**を与える

提案5. 学習に要する時間を大切にする

- 日常的な学習や学習計画の重要性を伝える
- 授業は時間通りに始め、時間通りに終了する
- 授業の予習・復習や課題に取り組むために必要な学習時間量の目安を伝える
- 授業には毎回出席して、学習に集中するように求める
- 大きな課題の場合には、段階的な締切をいくつか設定する
- 学生に発表させる時は、事前にリハーサルをよう求める
- 重要な文献は教材集などの形で早い時期に学生に渡しておく

提案6. 学生に高い期待を伝える

- **学習する内容**が学生の将来において持つ意味を考えさせる
- 毎回の授業の始めにその日の**学習目標**を板書し、口頭でも説明する
- **がんばって取り組まなければ達成できない課題**を用意しておく
- 意欲的な学生向けに**発展的内容の文献・課題**を用意する
- 授業の到達目標を明確に示す(変更)
- 成績評価の基準と方法を示す(変更)
- **優れた答案やレポートの例**を紹介し、どの点が優れているか説明する

提案7. 学生の多様性を尊重する

- 自分と異なる考え方や経験を尊重することの重要性を学生に伝える
- 学生間の経験、興味・関心、学習スタイルの差異について知る努力をする
- 予備知識が足りない学生のために補習教材を用意する
- 障がいをもった学生のために補助器具や教授法の工夫などの便宜をはかる
- 映像教材、ディスカッション、グループ学習などの多様な学習活動を用意する
- 他の学生に対する差別的発言や攻撃的な言動をしないように求める
- 教員自身が持つバイアスやステレオタイプに敏感になる

自大学の学生に適した教授法・学修支援方法は？

- 自大学の外部環境上（チャンス、脅威）は？
- 自大学の内部環境上の特徴（強み、弱み）は？
- 個人としてできること、組織として取り組むべきこと
- 解は一つではない
- 本質的に重要な問題は何か？
- 妥当性（的外れでないか？）
- 信頼性（誰がやっても一定の効果が期待できる）

どうもおつかれさまでした。

